

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370300596		
法人名	有限会社 ゼロズ		
事業所名	グループホーム ほほえみⅡ		
所在地	津山市下高倉西549-43		
自己評価作成日	令和 1年 10月 5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	令和元年10月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所者一人ひとりが培って来られた人生の豊かさをしっかり発揮して頂けるように、思いや能力を引きだして充実した日々を過ごされることを支援している。
 習字や絵手紙・歌などの活動を通して、お互いに楽しむ生活を送って頂いている。
 毎日のアクティビティでは目標とする行事があり、皆で力を合わせて練習し、出来るようになり、入所者と職員共に達成感を味わうことができる。美しい田園風景を臨める中庭や畑で採れる季節の食物、地元の野菜市の新鮮野菜を使った食事は皆さんの楽しみの一つである。内科・歯科の医療面でのサポート体制もありいつでも相談に乗って頂ける。日々の会話の中に皆様が歩んで来られた歴史を感じつつ新しい日々を充実してお過ごし頂けるよう寄り添っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

県北でもこのグループホームの歴史は古く、設立19年と聞いた。しかし施設内は古さを感じることなく、掃除や手入れが行き届いており、むしろ新しさを感じるほどである。訪問時は、丁度ハロウィンの飾りつけの途中であった。車椅子に座った利用者が、「うん。そこがええな」等と会話し、一緒に相談をしながら職員が飾りつけをしている姿が印象的であった。職員のどんな動きの中にも、利用者と視線を合わせ話をしながら動いている姿には、利用者を大切にしているだけではなく、家族のような雰囲気でもっと安心できる空気が流れている。施設全体の中の廊下やホールの空間も、一般的に多い子供じみた壁画や飾りつけではなく、落ち着いた雰囲気の絵画や、絵手紙の作品を掲示している。その様子からも、個々の一人の大人の利用者と向き合っていることが感じられる。又、開設から職員が変わらないことも、この施設の大きな特徴である。それぞれ長く利用者と関係ができていながらその、対応で決して上から目線の声掛けでなかったが、それ以上に利用者の職員を見る視線が優しくかった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は詰所に掲示し、ケア検討においても理念に基づいたケアのあり方を考え、実践している。	毎月行っているスタッフ会議の時には、理念に基づいて共有している。又、利用者の問題行動等に対する対応も、理念に基づいて考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	高倉小学校に毎月ニュースレターを届け学校に掲示して下さっている。 夏にはひまわり 冬には葉ボタンを持って訪問して頂いている。ゆうやけ市の新鮮な野菜を食事に活用して居る	高倉小学校の交流以外でも、みまもり110番を受けているので、各学期の初めと終わりには、通学路の子供と先生が挨拶に来てくれている。又雨の日などは、近所の方が「傘を貸して」と来られたり、「ここはどんな所?」と言われ見学にお年寄りが来られることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々が訪問して下さり、生活を見ていただく機会があり、理解して下さっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はご家族の参加も増え、面会だけではわからないホーム内の様子や一緒に生活されている方々の状況も理解して頂ける良い機会になっている。拘束廃止対策会議を開催している。	運営会議には、毎回行政・地域の方・利用者家族も参加している。今回は、推進会議にも参加させて頂いたが、利用者の状況報告を初め、細かなケアについても報告があった。また拘束廃止対策会議についての報告・説明がでは参加者と一緒に、より良いケアを考える形をとっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	特に困難事例はないが、必要なときにはいつでも相談に乗って頂ける関係にあり市役所の担当者とは信頼関係が築けていると思う。	毎回推進会議に、行政の方も参加してもらっているため、何でも相談できる関係は出来ている。困難事例は特にないが、気になることは、その都度推進会議の時に相談は出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉をしっかり受け止め、気持ちに配慮してその方らしい生活を支援している。ヒヤリハットを記録し、皆で検討し対応し拘束しないケアにつなげている。毎月拘束廃止対策会議を持ち 運営推進会議でも発表検討をしている。	毎月の会議の中でも、話し合いや検討できている。今回の運営推進会議の中での発表でも、利用者の行動を問題行動ではなく、本人の立場に立っての発言が多く、日常のやりとりの中に、心の拘束を捉えている。職員が利用者の「心に寄り添いたい」との書き方が多くみられた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学び、会議で発表し詳細な内容は回覧して、高齢者虐待について勉強している。言葉、表情による虐待にも職員間で気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	保佐人の司法書士氏の訪問もある。必要な時には相談に乗って頂ける関係を築けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に契約書・重要説明事項・個人情報・医療連携加算・社会生活等文書で丁寧に説明し、理解・納得を得て契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との会話の中でご家族との思いや要望と思われることを共有メモに記録し、スタッフ全員が目を通し、スタッフ内で共有しケアに取り入れている。	面会時に声掛けし、その都度聞いている。ご家族の面会状況は様々で、遠方で面会に頻繁に来れない方は、変りがあれば電話で相談確認をしている。	現状として、家族会の結成はご家族も希望していないが、家族会としてではなく、「敬老会」などのイベントに参加してもらい、ご家族同士が顔を合わせる時間を持つのも良いのではないだろうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例のスタッフ会議でケアの検討は行っているがそれだけに限らず きづいたことがあればその都度話し合いを行い検討している。話し易い関係を築いている。何でもノートの利用も続けている。	何でもノートに気づいたことや、それに対してのコメントなど、想像しやすい書き方で記入されている。必要と感じた時は、その都度話し合いを行っている。それは、職員間の長年の関係性から成り立っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の体調にも配慮し、個々の勤務希望等体調家庭環境に応じた労働時間・条件で対応している職員間で負担がかからないようお互いに協力し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・職員が勤務として研修に参加し、内容を持ち帰って全員で共有し、実践に生かしている。働きながら資格を取り、自己研鑽に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症ケア専門士の資格取得並びに研修参加でより専門性を求めた取り組みをしている病状・介護度の重度化には、医師のアドバイスは有難い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初はできるだけゆつくり会話の時間をとり、ご本人の言葉・表情から気持ちを汲み取り、安心し、職員が信頼できる存在であると感じていただける関係作りを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家庭での様子をよくお聞きし、ホームに託していただくご家族の気持ちをしっかり受け止め、ご家族の気持ちのケアも心がけている。解決できない思いも毎日お聞きする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時のアセスメントをしっかりと行い、ご家族からの情報も考慮し、まずは安心感を第一にその方の自立を支援できるケアを考えている。 リスクの把握が初期では大切と思う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係を築き、できる事をして頂くことで、皆の役に立っているという充実感を感じ、お互いが感謝の気持ちを表わせる場面を作っている。畑の作物の収穫と調理も参加しておられる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のニュースレターは227号を数え個別に判りやすくしている。体調の変化については随時電話連絡し、対応についてはご家族の希望を聞き、それに基づいた支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご希望があればご家族も一緒に食事をしていただく。訪問時間によってはおやつも一緒に楽しまれる。同級生の訪問に感激されることもある。	定期的な家族と外出や、外食に出掛ける方もいる。又娘やひ孫・親戚に手紙を出しているもいる。お昼時に、面会があると、声掛けをして一緒に食事ができるような環境も整えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者様同士の話も折々に楽しまれている。興味のあることを少人数で楽しめる活動を行っている。毎月題材を用意し、スタッフとともに製作して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたらお見舞いに伺い、帰ホームまでのつながりを保っている。看取った方のご家族に会えば思い出話になる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がどのような過ごし方をされたいか希望を把握し、常に職員間で話し合いケアを行っている。 気持ちに添って生活できるように気をつけている。	本人の意向を聞きながら、寄り添う対応を心掛けている。あまり、希望を言えない(言わない)人への確認は、身体拘束の会議にて、その人の思いや希望を皆で話し合っている。常に本人の意向に添えるように、表情や発する言葉から考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	私の暮らしシートをご家族にお願いし、ご本人の生活歴や大切にされていることをできるだけ把握している。入所までの経過等はご家族、ケアマネージャーから情報提供を受けている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基礎疾患に注意の必要な方も多く、日々の体調をきちんと把握し、安全に楽しく過ごせる活動を支援している。ご本人が安心して取り組める作業を検討し提供している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の気持ちの尊重 ご家族の意向をお聞きし、ケア検討会議で検討・確認しチーム全体で取り組んでいる。日々の変化についても必要な検討はその都度行い、共有している	家族の意向と本人の思いを確認しながら、車椅子対応などを考えて対応している。ケアプランの内容も、運動に重点を置くのではなく、心のケアに重点を置いて、職員や管理者・代表で話し合いケアプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にはその方が発せられた言葉を記録したり、日頃と違う点を注意している。記録には事実を、何でもノートには職員間での情報共有や見直しを実践している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護度の重度化やご家族の状況などを考慮して個々の必要とされていることを援助することで出来るだけホームでの穏やかな生活が続くように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学生との交流、近所の方々との交流、買い物、気晴らし外出、季節を感じる外出、行事の参加など楽しんでいる。野菜作りや花を植えたり季節が感じられる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状態に応じた医療が受けられるように、事前にご家族の要望を聞き、各医療分野と連携し受診支援をしている。内科 歯科の往診も受けられる。	内科や歯科の往診を受けている。眼科や病気などの他科受診の場合は、往診時に医師に相談し、紹介状等をお願いし各医療分野と連携が出来る。家族が受診に付き添えない時は、職員が対応している。医療面では特に問題はない。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ちょっとした変化や気づきを職員間で相談し、医療機関に連絡し、支持を仰ぎ適切な対応ができる。訪問看護ステーションとの連携・往診が有効に機能している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはホームでの入院に至るまでの状態を詳しく伝えている。病院関係者との関係は良好で入院中も、見舞いに行きご本人が安心できる支援をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に医療連携と看取りに関する指針を説明し、ホームでできることとできないことの説明と、終末期については延命治療等についても、話し合える体制を作っている。	看取りについては、入居時や必要な時に都度説明を行っている。医師が、終末期と判断すると医師から家族に病状と看取りについての説明を行い、家族にどうするかを決めてもらう。しかし、病院で食事が摂れない人も、施設へ戻ると食事が食べられるようになる方もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	体調の急な増悪で救急車を要請することもある。適切に対処できるように発生時のシミュレーションを行っている。実際の対応について全員で見直し、評価を行いより実践に役立つシミュレーションをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。緊急災害警報時の訓練も行った。 地震などの災害はご家族の支援をお願いする地域の防災連絡にも参加している。災害時の備蓄についても確認している。	避難訓練は定期的に行っている。避難訓練や、災害時の備蓄などの対応は出来ている。しかし、今年の夏に雷が落ち、停電が3時間ほどあった。暑い時でもあり、大変だったので、停電の時の対策も考えていこうと思っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室訪問時 入浴時は1対1の支援をし、トイレの声かけは小声で誘導時はプライバシーへ配慮して居る。手話や筆談でのコミュニケーションもできる。	元気な方への声掛けの仕方によっては「傷ついた。馬鹿にされた」と思う方もいるので、個人に対しての声掛けの仕方についても共有している。個人的な対応と全体的な対応と配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大きな一日の流れを基本にしているが、個人個人で体調、気分もあり無理のない対応を心がけている。その中でも 他の方との交流を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気温に合った服を用意し、行事の時にはお化粧をし、おしゃれな装いをして楽しんでいる。髪形などご本人希望を大切にしている。髭そりも大切である。美しく装う楽しみを感じて頂ける機会を大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	中庭でのガーデンパーティ・松花堂弁当など季節・雰囲気・視覚など味だけでなく楽しんでいる。 下ごしらえや片付けは家事として協力し合っている。介護食の方が増えたが少しでも旬の食材を楽しんで頂いている。	地域の野菜市で野菜を週に2・3回購入している。献立の予定に無くても、旬なものを使い料理に一品添えている。陶器の食器を利用し、普通食・刻み食・ミキサー食の他に、栄養補助食品等その方にあった食事形態で提供している。「御飯が美味しいから長生きするで」と利用者の声もあった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病・心疾患等の病状に応じ、医師の指示に添った食事を用意し、摂食・嚥下状態に応じた、食事形態・栄養補助食品等、多岐にわたる支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じ、歯磨きの声かけ、確認、介助、口腔清拭等の口腔ケアを行っている。個々に必要な口腔ケアの器材を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに応じてトイレの誘導を行い、自立を支援しつつ困っておられる時は職員が適切にサポートできるように見守りを行っている。介護の必要な方は快適に過ごせるように細かく検討対応している。	トイレで排泄できる方には、用を済ませた後に職員を呼ぶために鈴を用意している。トイレは、手すりの高さ等その方にとって利用しやすい場所を利用できるようにしている。又パットの交換など嫌がる方もおられるが、毎朝お下の清拭タオルを用意し対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く使った献立の工夫や、乳製品、水分摂取に気をつけている。体操や散歩で身体を動かすことも毎日の日課になっている。それでも解消しない場合は医療と連携している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の気持ちを大切に、希望に応じて入浴でき、拒否がある場合は足浴を行ったり、時間や日にちを変更して気持ちよく入浴して頂けるように支援している	ご本人の意向に添って、週に3日入浴している。夏場はシャワー浴で対応し、冬は浴槽に浸かってもらっている。自立度の高い方は、見守り対応し介助の必要な方は、2人介助で対応している。3人介助で対応している方も1名おられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を考慮し、休憩時間と好みの空間を確保し、夜間は慣れた寝具で、室温の調節も気をつけて安眠できる環境を創り、入床のタイミングも個々に合わせて行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の飲み忘れや、誤薬の無いように一日筒保管し与薬の責任も明確にしている。薬の変更も確認できるように情報記録をまとめている。急な受診にも対応できるように準備している。状態に変化があればその都度医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	常に感謝の気持ちをお伝えしながら家事に関わって頂いている。個別レクリエーションの時間も大切に、その方の好きな事、得意な事にじっくり取り組んで頂けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブを楽しみ帰りには野菜市に立ち寄って季節の果物や野菜を求める。全員の方には中庭や近隣の散策など季節を感じ、地域と触れ合う時間を大切にしている。	その日の体調や意向に添ってドライブや買い物に参加している。受診に合わせて、外出や外食をしている方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお預かりしているお金で希望の物品が購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から母の日の花や手紙などが送られてくる。お孫様・ご家族との電話は喜びである。ご友人からの手紙を読まれる時は懐かしそうである。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	屋内に居ても季節感を感じられるように中庭を設けて自由に外気浴が出来る。どこにいても自然に生活の音が聞こえてくることで安心感を感じられる空間である。利用者同士でおしゃべりやゲーム等楽しめる空間になっている。	大人として、対等に過ごしてもらうように配慮している。レクリエーション係の担当者が3人おり、利用者が参加しやすいものを考えて対応している。又、壁画なども子供じみないように気を付けている。絵手紙の色を塗ったり、一言を書いたり。職員が作った消しゴム印が押してあり本格的。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座りなれた場所で 顔なじみの方と一緒に穏やかに過ごせる空間になっている。相性は大切に、日常生活が楽しくなる様に考慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族でゆっくりお話ができるように長椅子を用意されたり、手作りの壁掛けやご家族の写真で家族とのつながりや安心感を持って頂ける。ホームの備品が一役買うこともある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮して環境を整備している。目印になるものを分かりやすく、なおかつ目障りにならないように配置している。立位が安全にできるようベッドにL字バーを設置している。		